未来に繋げる小さな一歩

金沢大学附属中学校　３年　小林　杏

昨年の元旦、突然の大きな揺れが私達を襲いました。能登半島地震です。ニュースで繰り返し流れる崩れた家屋や火災、避難所では憔悴した人々の姿の映像が流れていました。私は、「出来る事があれば何かしたい」という感情でいっぱいになり、春休みに父と一緒に避難所でのボランティア活動に参加しました。

避難所では、命からがら逃げたと語って下さった人がいました。「本当に必死だった。ただ生きることだけを考えて逃げた」と語ってくれました。瓦礫の下から、家族を救えなかった人、行方不明の人を探し続けている人達。その姿に私は胸が締め付けられました。

けれど、私は同時に大きな無力感を抱きました。知識も経験もないので、簡単な片付けや荷物を運ぶくらいしかできず、「もっと役に立ちたいのに」と、情けなく思っていました。その経験をきっかけに、「いざという時に備える防災や救命」について家族で考え、防災士の知識を身に着けたいと思うようになりました。そして、地域の救命講座に申し込んだところ、どの講座も定員がすぐに埋まるほどで、多くの人が防災意識を高めていることを実感しました。私はひとつひとつ知識を身につけて、自分の身を守りつつ周りの人達の役に立てるように前進します。

以前、アメリカにホームステイした時に、ホストファミリーに能登半島地震の話をしました。「日本は地震がとても多いね。だから、被害を少なくするために、知識と備えは大切。思い出がたくさん詰まった家や、宝物を失ったとしても何よりも大切なのは命よ。助からなかった人や、家族には敬意をもたなくてはね。」とホストマザーが話してくれました。さらに、アメリカでは家族単位で非常用『ゴーキット』を備えていて３日分の水や食料、救急セットの準備をしてる家庭が多いと教えてくれて、日本と同じ様に、もしもの備えをしていました。私は正直に言うと、外国の人に話しても分かってくれないだろうと思っていましたが、自分の経験を海外の人に伝えることで、防災への意識が世界で共有できるのだと感じました。

今年は、大阪・関西万博が開催されています。テーマは『いのち輝く未来社会のデザイン』です。世界中から集まる知識や技術を通して、災害発生時の備えや復興について知る絶好の機会なので、たくさん学んで活かしていきたいと思っています。

災害は、私達の暮らしを一瞬で壊してしまいます。でも同時に、人と人とのつながりや助け合いの大切さを教えてくれます。本当に小さな一歩かもしれませんが、防災知識を身につけ、ボランティアを続け、そして経験を未来に繋げていくこと。それが、私にできる「未来に繋げる小さな一歩」です。